

2017年4月25日掲載

「進化する言葉」

4月は毎年新人研修のシーズン。今年も様々な企業に講師として伺い、社会人に必要な挨拶や身だしなみ、言葉づかいなどを一緒に学んだ。

毎年、世代間ギャップを感じることもある。今年は特に、「食べれる」というような「ら抜き言葉」が普段の会話で使われるなど、「言葉」のギャップを肌で感じた。以前知って驚いた若者言葉の「フロリダ（風呂に入るから会話から離脱する）」という SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の言葉も知っている新人が多かった。

2015年度の文化審議会の国語に関する世論調査によると、「どちらを普段使うか」で「見れた」が「見られた」を初めて上回った。「背広」「スーツ」のように「どちらを主に使うか」は、全ての言い方で和語・漢語を「主に使う」が減少した。言葉の使われ方が年々変化している。

学生時代、「アホ」と「バカ」の境界線はどこかを調査した本について、学ぶ機会があった。調査の結果、昔の都の京都から同心円状に言葉が広がったことが分かった。つまり「バカ」という言葉が一番古く、「アホ」が一番新しいため、現在関西圏を中心に使われているというものだ。同心円状に言葉が広がったため、東北と鹿児島で似た言葉も使われているという。

今、私たちが使っている言葉もいずれ新しい言葉に変わるかも知れない。若者言葉も「どういう意味？」などと家族で楽しみながらコミュニケーションにつなげてみてはいかがだろうか。

（毎日新聞より）